県下の交通事故（11月末現在）

区分／年別	事故件数	死者	傷者
40年	5,591	120	4,139
41年	6,152	139	4,296
比較	増 561 +(10.0%)	増 19 +(15.8%)	増 157 +(3.8%)

やまなし安協ニュース

▶第2号◀
発行所
甲府市丸の内1丁目6－1
山梨県交通安全協会
TEL 甲府(0552)②5171 内線335・338

交通功労者・優良運転者 盛大だった表彰式

恒例による表彰式は、十一月三十日午前十時から県民会館において盛大に行なわれた。

本年度優秀賞は、韮崎警察署及び韮崎交通安全協会に、また、全日本交通安全協会長から贈られた交通栄誉章（緑十字銅章）は、甲府市日置周蔵氏ほか十九氏に対し伝達された。

当日の受賞者は次のとおりで、個人二八四人、団体三四団体の多きに達した。

一、優良警察署並びに交通安全協会

警察本部長・交通安全協会長賞

優秀賞　韮崎警察署　韮崎交通安全協会

優良賞　南部警察署　南部交通安全協会

〃　市川警察署　市川交通安全協会

〃　甲府警察署　甲府交通安全協会

努力賞　上野原警察署　上野原交通安全協会

〃　南甲府警察署　南甲府交通安全協会

〃　長坂警察署　長坂交通安全協会

二、交通栄誉章（緑十字銅章）

全日本交通安全協会長賞

(1) 交通安全功労者

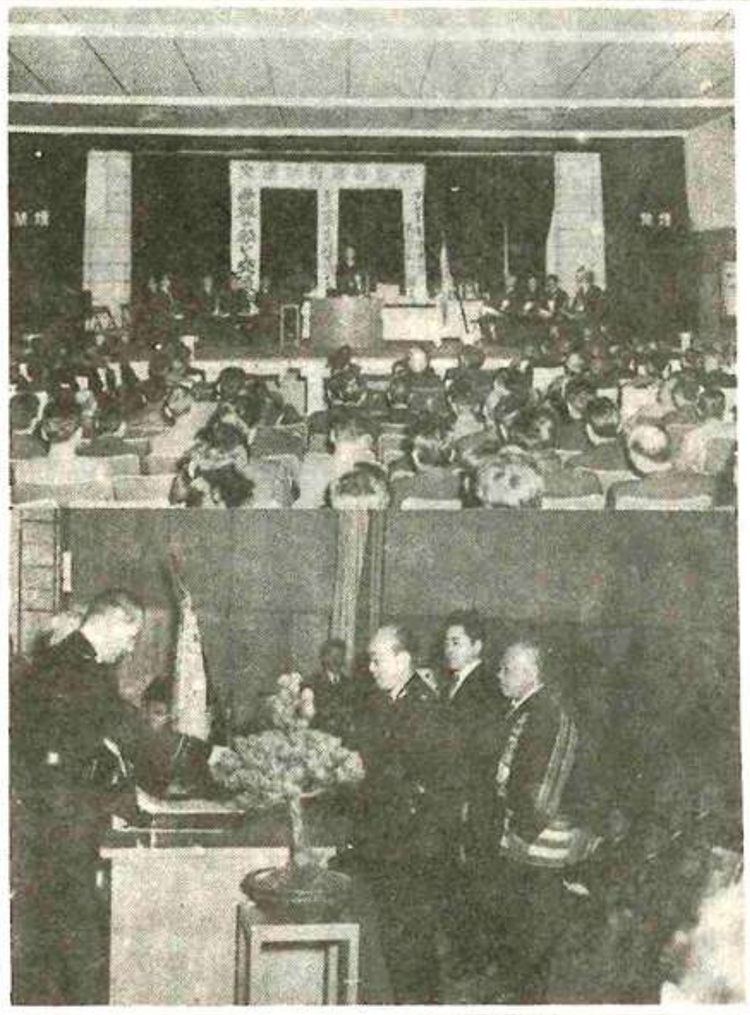
甲府　日置周蔵
南甲府　福田楽
小笠原　小野光雄
長坂　山本滋
日下部　永田享雄
韮崎　深沢徳平
鰍沢　雨宮藤四郎
南部　川口恒雄
市川　一瀬常良
石和　大久保光雄
日下部　小林広一
富士吉田　松浦実
上野原　久島朝雄
塩山　袖野隆
都留　谷内保長
富士吉田　高村保弘
大月　吉田克治

(2) 優良運転者

甲府　清水保雄
〃　穴水孝
南甲府　松土定男
韮崎　長沢正一
鰍沢　小林勝
南部　稲葉孝幸
市川　伊藤嘉重
石和　宮川城
日下部　小長井太郎
塩山　分部明教
都留　原田慶力
富士吉田　高野貴己
〃　三枝克己
大月　宮川栽
上野原　稲葉孝重
〃　大久保正仁
〃　藤本春男
〃　座間忠慶

優秀賞は韮崎警察署へ

▼二十人に交通栄誉章▲



三、一般交通功労者及び団体

警察本部長・交通安全協会長感謝状

(1) 一般交通功労者

甲府　鈴木滋
〃　太田ゆき江
〃　高橋弘光
南甲府　藤巻博
〃　蔵条
南部　網雄
〃　若林久義
石和　前島映滋
日下部　吉岡義兼
塩山　中村栄一
都留　望月幸吉
富士吉田　小佐野久寿夫
〃　渡辺規短雄
大月　源生諦信

(2) 一般交通功労団体

甲府　山梨大学附属小学校PTA
小笠原　豊女性ドライバーの会
韮崎　韮崎小学校PTA
長坂　株式会社高根相和産業
鰍沢　小林交通安全会
市川　市川大門ライオンズクラブ
上野原　上野原町ライオンズクラブ

四、交通功労役員

警察本部長・交通安全協会長感謝状

甲府　岩田朝造
〃　石坂保重
〃　小野吉利
〃　佐野三千寿
南甲府　伊藤幸光
〃　広瀬清
小笠原　保坂飛光
韮崎　深沢徳平
鰍沢　雨宮藤四郎
南部　川口恒雄
市川　一瀬常良
石和　大久保光雄
日下部　小林広一
富士吉田　松浦実
上野原　久島朝雄
塩山　袖野隆
都留　谷内保長
富士吉田　高村保弘
大月　吉田克治
韮崎　深沢徳平
鰍沢　雨宮藤四郎
南部　川口恒雄
市川　一瀬常良
石和　大久保光雄
日下部　小林広一
富士吉田　松浦実
上野原　久島朝雄
塩山　袖野隆
都留　谷内保長
富士吉田　高村保弘
大月　吉田克治
韮崎　深沢徳平
長坂　浅川虎雄
鰍沢　大久保正仁
南部　稲葉孝幸
市川　伊藤城
石和　宮川栽
日下部　小長井太郎
塩山　分部明教
都留　原田慶力
富士吉田　高野貴己
〃　三枝克己
大月　宮川城
上野原　稲葉孝重
〃　藤本春男
〃　座間忠慶

五、優良運転者

警察本部長・交通安全協会長賞

甲府　大森正一
〃　坂田勇
〃　古屋邦夫
〃　馬場今朝吉
〃　小尾文一
〃　中沢靖字
〃　一瀬次男
〃　佐藤昭雄
〃　高野勉
〃　鈴木義雄
〃　雨宮和夫
〃　杉山義政
南甲府　窪沢文吉
〃　大須賀祐寿
〃　小池毅
〃　池谷亀三郎
〃　吉野和三
小笠原　桜田竜之助
〃　加藤健治
〃　清水友治
〃　小笠原亀美男
韮崎　横内豊秋
〃　滝田良金
〃　武藤勝
長坂　藤森国雄
〃　浅川菊雄
〃　歌田文雄
〃　間瀬戸春吉
鰍沢　大塩丑太郎
〃　樋口梅造
〃　小林平八郎
〃　望月今朝治
〃　深沢広吉
南部　稲葉鎮一
〃　小野三郎
〃　佐野徳孝
〃　松野豊
〃　望月栄
市川　一村松修
〃　遠藤道
〃　上田誠茂
石和　宮下平
〃　宮川定雄
〃　石原欣一
〃　伊藤裂
〃　豊角雄
日下部　樋口一夫
〃　辻勝
〃　高村隆
〃　樋川和四郎
〃　勝橋実
塩山　弦間美
〃　松下英久
〃　西山義視
〃　野田茂
富士吉田　伏見貞昭
〃　坂本弥
〃　堀内日義
〃　天野勝
都留　高村勇雄
〃　平井徳男
〃　天野弘光
〃　高橋恒行
〃　辻雅広
〃　秋山銀一
大月　佐々木博
〃　久根口定次
〃　小俣藤太郎
〃　渡辺泉
上野原　小坂美規雄
〃　田中公利
〃　守屋勝次
〃　笠原栄
〃　宇津木高行
〃　白鳥次郎

六、学校交通安全自治班

警察本部長・交通安全協会長感謝状

甲府　貢川小学校交通安全自治班
南甲府　湯田小学校交通自治班
韮崎　韮崎高等学校生徒会
長坂　秋田小学校交通自治班
南部　睦合小学校交通安全委員会
市川　大同小学校交通自治班
石和　一宮北小学校交通安全自治班
日下部　山梨高等学校生活委員会
塩山　大和中学校交通自治班
都留　東桂小学校交通安全自治班
富士吉田　下吉田中学校生徒会
大月　猿橋小学校児童会
上野原　小菅小学校交通安全自治班

七、優良運転者

警察本部長証標貸与

甲府市合同タクシー
小林正ほか一四六名

八、退職功労役員感謝状

(1) 身延町身延
元山梨県交通安全協会理事
前南部交通安全協会長
一宮市松

(2) 勝沼町勝沼
元山梨県交通安全協会理事
前塩山交通安全協会長
袖野隆

(3) 甲府市伊勢町
元山梨県交通安全協会評議員
土橋長勝

(4) 身延町下山
元山梨県交通安全協会評議員
遠藤泰明

(5) 都留市下谷
元山梨県交通安全協会評議員
水野篤

九、退職功労職員感謝状

前山梨県交通安全協会事務局長
前山梨自動車教習所長
望月忠義

十、特別協力者感謝状

山梨コロナ会

会員の声

▼私の提言▲

譲りあいの心がけ

(一) 自動車を運転する場合に、もっとも必要なことは、譲りあいの精神ではないでしょうか。

無理な追越し、割り込みといったことが随時随所で見受けられるが、こんな運転で、他車をスイスイと追い越す人は若い人に多く、はた目には、運動神経の発達したうまい運転者のように見えるかもしれません。

ところが、精神医学の先生方にいわせると、こんな運転者は感情的な落ちつきや、平衡安定性が低く、きわめて不安全な人たちであると指摘しています。

譲りあいを心がけて安全で快適な道路交通にしたいものです。

(二) 交通事故の原因は、いろいろの要素の複合によるものですが、そのうちもっとも重要なことは、運転速度の選び方で、これが事故の発生確率に大きく響くということです。

例えば、速度を四〇キロから五〇キロにあげると、事故の起こる確率は一〇倍となり、五〇キロから六〇キロにあげるとさらに一〇倍となって、四〇キロの場合より一〇〇倍も事故が起こりやすいということです。

加うるに、速度が大きいほど被害の規模も大きく、速度の出し過ぎが事故の根本的原因だと言えるようです。

〝ブレーキは早目に、スピードは控え目に〟と言いますが、速度は控え目でありたいものです。

（甲府交通安全協会西青沼支部長　河西定男）

謹賀新年

ヨーロッパの交通事情

交通調査官　笠井耕三郎

さる十月十二日から十一月二日まで、イギリス、フランス、ベルギー、オランダ、西ドイツ、スイス及びイタリアの七カ国の交通事情を見てまいりましたので、特に感じた点を申しあげ、ご参考に供したいと存じます。

まず最初に目に映った道路事情でありますが、道路の路面が滑らかできれいなことであります。

この原因は、各国とも街の中の空地には一面に芝が植えてあり、郊外の道路の沿線はほとんど牧場で、ほこりがたたず、また、自動車も土や砂を街の中へ運び入れないことと道路自体の構造も舗装の厚さが日本と違い、しっかりできていることであります。

世界的にも有名な西ドイツのアウトバーンと、イタリアの太陽道路と呼ぶハイウエーをバスで走りましたが、直線であることはもちろん、路面の高さと沿線の高さがほとんど同じですので、安全感が強く快適であります。

西ドイツのアウトバーンは、今から三十年前にヒットラーが軍用道路として建設しただけあって、ガッチリとすべてが実用的にできておりました。

道路の舗装率は、イギリスが世界第一と聞いていましたので、強い関心をもって見ましたが、どんな田舎道も完全に舗装されて実に気持がよく、そのほかの各国もよく整備され、特にドイツ、ベルギー、オランダは、自転車の専用道路がよく整備されており、うらやましい限りでした。

交通安全施設については、道路の両側に設けられるガードレールは、イタリア、スイスなどの山間地を除いては、平坦かつ直線であるために、その必要性は少なく、ハイウエーの一部以外はあまり見られず、街の中の交差点付近のガードフェンス（防御壁）が特に目についた程度でした。

道路の照明設備は非常によく、水銀燈、ナトリウム燈を用い、オーバーハング型式のものが多く、ロンドン、パリー、ローマの市内においては、夜間ほとんど車の前照燈を用いなくてもよいほど、照明設備が行き届いていました。

このほか、特に印象に残っていることは、イタリアは日本と気候風土が似かよっており、トンネルもたくさんありましたが、このトンネル内の両側を高さ三メートル位白ペンキで塗装して、トンネル内の安全通行をはかっていたことでありました。

もちろん本県内のトンネルに見られるような水漏れなどはありませんが、このちょっとしたアイデアには感心させられました。

交通規制については、各国の主要都市は東京都内と同じように、車両の増加によるラッシュで、いたるところ渋滞をきたし、中でもパリーの如きは、人口八五〇万で車は一五〇万台ですが、日曜祭日にはこれが二〇〇万台にも達するということです。

そのため主要都市はほとんど全面駐車禁止と、一方通行を断行し、パリーやローマはトラックの昼間乗り入れを禁止しており、そのためデパートや問屋などは、商品の出し入れを夜間行なっておりました。

スピード制限は、街の中は五〇キロないし六〇キロにしてありますが、車が多いためせいぜい三〇キロから四〇キロ位しか出せず、朝夕のラッシュ時には交通まひ状態のところが多く見られました。

郊外は道路がよいのでスピードはオープンです。

しかし、野放しということはなく、工事中で危険箇所には相当手前から、八〇キロ、六〇キロ、四〇キロと段階をつけて速度制限をし、また、ハイウエーのゲートを知らせるため、やはり手前からゲート五、〇〇〇メートル、ゲート三、〇〇〇メートル、ゲート一、〇〇〇メートルと、運転者がそれを見て逐次スピードを落とすように、合理的な規制と指導を行なっておりました。

このような交通規制に対処するための、道路標識と道路標示は実によく整備され、道路上はまさに標識の花盛りといった感じでありました。

道路標識の形は国連方式で、各国ともおおねね同じでありますが、設置場所が道路の端のほか、信号機の柱、電柱、壁等をよく利用し、効果的に建ててありましたが、イタリアを除いては、屋外広告物が少ないので、日本のようにまぎらわしいこともなく、標識の効果が最大限に発揮される状態でありました。

また、補修管理もよく行き届いていて、傾いたり、損傷しているものはほとんどありませんでした。

道路標示も路面がきれいなため、ペイントが鮮明で、駐車禁止、横断歩道など非常にはっきりしておりました。

特に横断歩道の標示がしてある場所の両端には、安全標示燈の設備が必らずあったが、このような風景は他国では見られませんでした。

イギリスに次いでスイス、オランダ、ベルギー、フランスが同じくらい、西ドイツは日本によく似て、横断歩道付近で徐行しない車、正しい横断をしない歩行者も見受けられました。

最も悪いのはイタリアで、赤信号でもとび出す車、横断歩道がすぐ近くにあっても、そこを渡らないで斜め横断をしたり、車のすぐ前、すぐ後ろを横断する人も大分見受けられました。

次は、交通安全対策についてでありますが、道路及び交通安全施設が実によく整備されていることと併せて、道路標識や道路標示もよく整備され、車両を運転中の人に、これでもか、これでもかと、万全の注意を呼びかけているように思われました。

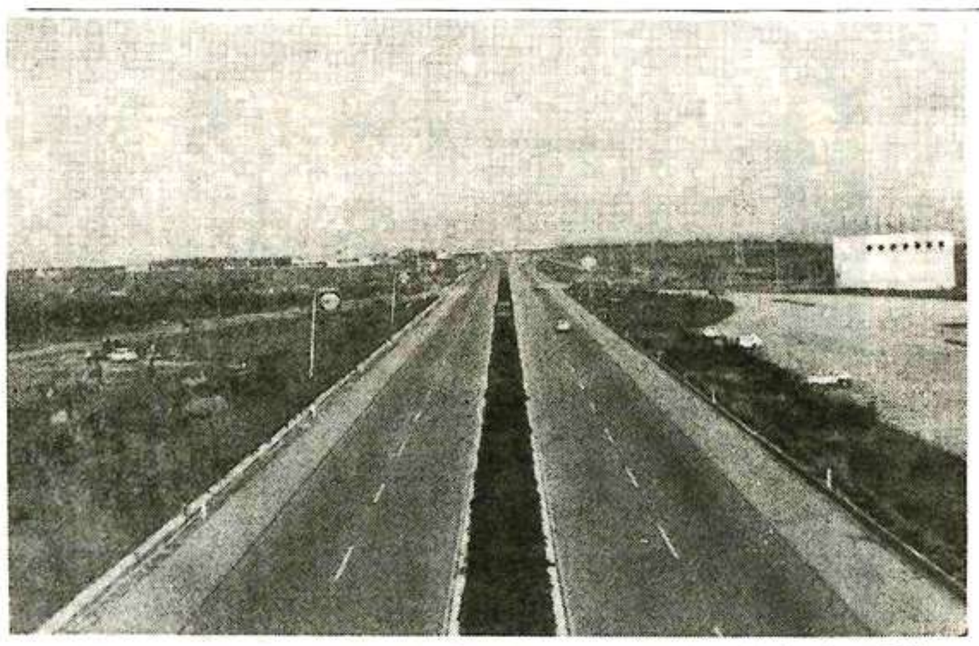
また、その反面、このような行き届いた道路環境のもとにあるので、警察の取締りも厳格で、わずかの駐車違反でもびしびしと検挙しているという状況を見聞して、大いに感ずるところがありました。

最後に交通のモラルの高揚という点でありますが、前述したように、幼年期の厳しいしつけと、少年期における教育訓練とによって、交通の危険性というものを体得させ、習慣化し、性格にまで高めようとしているということであります。

甲府市内などで日常見かけるように、左右の交通の安全を確かめずに、ちょっと手だけあげて、ゆうゆうと横断する人、また、道路上へ物品を置きっ放しにし、公道を私用地化して平然としている習慣などは、お互が監視し、注意し合って、改善して行きたいものだと思います。

現在のヨーロッパ各国の交通事情は、まことに複雑で厳しいものがありますが、自動車一万台当りの交通事故死の比率は日本の二分の一ないし四分の一という低率であることをみるにつけても、わが国における緊急かつ真剣な総合対策の推進を強調せずにはおられない気持ちであります。

以上



すばらしいイタリヤのハイウエー（ナポリとローマを結ぶいわゆる太陽道路）

■金丸会長勲四等に■

山梨県交通安全協会長金丸康三氏には、十一月三日運輸交通関係の功績により、勲四等に叙せられ、瑞宝章を授与せられました。

金丸会長は七月一日交通安全運動に関する功績により、警察庁長官から山梨県で初めての警察協力章を贈られ、今回はさらに勲四等に叙せられたわけですが、金丸会長の長い間の大きな功績から考えますとき、当然とは云いながら、まことに慶賀に堪えません。

ますますご健康にて、ご活躍くださるようお祈りする次第であります。

整備された交通標識

幼年期に厳しい安全教育

昔、私たちが少年のころ、正月の遊びの一つに、〝いろは歌留多〟などというものがあり、家庭での遊びではあったが、その一句一句に教訓が含まれていて、娯楽であると共にしつけのよすがにもなっていたものでした。たとえば（い）犬骨折って鷹にとられる

（ろ）論語読みの論語知らず（は）花よりだんご

（に）憎まれもの世にはばかる―等々……そこで昨今、交通地獄ともいうべき危険な時代に、交通安全の心をこめた新らしい〝いろは歌留多〟をつくり、運転関係者はもとより、一般家庭に普及せしむるようにしたらどんなものであろう。はなはだつたないものかも知れないが、ご参考までに試案をお目にかけます。

（い）いつも忘るな交通道徳

（ろ）路上で遊ぶな、遊ばすな

（は）花に浮かれて忘るな足もと

（に）にっこり笑って対面交通

（ほ）歩行者優先黄色い旗で

（へ）屁理屈いわずに守れ道交法

（と）飛ばすな！トラック積荷も制限

（ち）注意万全、まずは安全

（り）輪禍恐れよいのちかけ

（ぬ）ぬかるみ徐行で泥飛ばすまい

（る）留守の子供も路上で遊ぶな

（を）鬼さえおののく交通地獄

（わ）忘るな寸時も交通ルール

（か）必らず守れ右側通行

（よ）酔っぱらい運転絶対禁物

（た）正しい運転で事故は絶無

（れ）礼儀正しく人も車も

（そ）粗忽でしたで済まぬ事故

（つ）罪は深いぞ轢き逃げ運転

（ね）寝た間も忘れぬ交通安全

（な）泣いても悔やんでも後のまつり

（ら）乱暴運転事故のもと

（む）無理な追越し事故を生む

（う）うっかり見逃がす危険信号

（ゐ）いねむり運転事故となる

（の）のどもと過ぎて危険を忘れる

（お）オーライ・ストップはっきりと

（く）悔いるも及ばぬ未熟な操作

（や）約束しましょう無事故の誓い

（ま）待つ一秒が身を守る

（け）けがは一生注意は一秒

（ふ）踏切りでは必らず一旦停車

（こ）ころばぬ先のつえ人も車も

（え）永久に忘れるな安全宣言

（て）てんでに用心注意が肝腎

（あ）あだに思うな交通整理

（さ）些細な油断が大事故のもと

（き）黄色い旗のオバさんに感謝

（ゆ）ゆゝしい大事も一寸の不注意から

（め）面子にかけて事故出すな

（み）みんなで協力ます安全

（し）信号合図に注意忘るな

（ゑ）笑顔で無事故のその日その日

（ひ）轢き逃げは殺人と同罪

（も）もう一度前後左右を確かめて

（せ）せかずあせらず慎重運転

（す）スピードの後を事故が追う

交通安全〝いろは歌留多〟

甲府市城東二丁目一六―一九　渋谷俊

相原美智子さんが一位

県下中学生交通安全弁論大会

山梨県交通安全協会と、交通観光新聞社の共催による県下中学生交通安全弁論大会は、ことしで第八回目を迎え、十二月三日午前十時から、甲府市恩賜林記念館で盛大に開催された。

出場選手十八名（男子八名、女子十名）は、各協会毎に行なわれた予選において優勝し、又は特別推薦による生徒だけあって、いずれも論旨といい、表現、態度、音声等においてすぐれた選手ばかりで、審査員もその判定に苦心したということである。

審査の結果は次のとおりであった。

優勝　松里中二年　相原美智子

準優勝　櫛形中二年　保坂嘉恵美
甲府北中三年平田　賢
甲府東中二年宮本　豊
都留一中二年石川　一夫
松里中三年　竹井みはる

交通戦争に思う

松里中二年　相原美智子

現在、私たちの住んでいる日本では毎日が戦争です。しかし戦争と言ってもあのベトナム戦争のような戦争ではありません。車と人との戦いなのです。毎日起きる多くの交通事故によって、たくさんの尊い人命が奪われ、また傷ついているのです。

いわゆる戦争は思想や宗教の違い、経済的の利害などから、おたがいの国と国とが憎み合い戦いが始まったものでしょうが、交通戦争は同じ日本人同士が、何の関係もない人たちが偶然その場に通り合わせたというだけで被害者となり、加害者となっています。

交通事故によって一瞬の内に可愛い子供を亡くした親の気持ちはどんなにか辛いに違いありません。私は前に先生からこんな話を聞いたことがありました。それは一人息子をトラックの事故で亡くした母親があまりの悲しさに、トラックが通るたびに「子供を返せ、子供を返せ。」と泣き叫んだそうです。この母親の気持ちは、死んでしまった子供のことばかり考えて仕事も手につかず、毎日が暗く悲しいことでしょう。

また一家の柱である男手を失なった家庭ではどうでしょうか。それまでの明るく、幸福であった家庭が壊され、それまでの幸福な家庭とはまるで違った暗く淋しい家庭に変わってしまうでしょう。このように毎日の交通事故で失う尊い人命は、あのベトナム戦争で失うたくさんの人命より、はるかに多く私には感じられるのです。どうしてこんなにも事故が起きるのでしょうか。この交通戦争を防ぐことはできないのでしょうか。いえ、できるはずです。

交通事故の原因を考えるとその大部分は自分自身、一人一人が交通規則を守っていないからです。「私一人が守っても他の人たちが守らないのではどうしようもない。」と思っている人も中にはいるでしょう。しかし、考えてみると、皆そんな気持ちで規則を守らなかったらどうでしょう。「私だけが守ってもしかたがない」という気持ちはなくさなくてはいけないと思います。大人たちが守らなくても、協力してくれなくても中学生だけは、いや「私だけは守ろう」という固い決意がなければなりません。また現在の交通情勢では、一斉取り締まりが行なわれるような時には、自動車の酔っ払い運転もスピード違反も、また無免許運転も少なく、そうでない時はこれらの違反が圧倒的に多いというのはいったいどういうようなことは優れた理性を持つ人間がすることでしょうか、むしろ、人間として最も恥じるべきことと言ってよいでしょう。

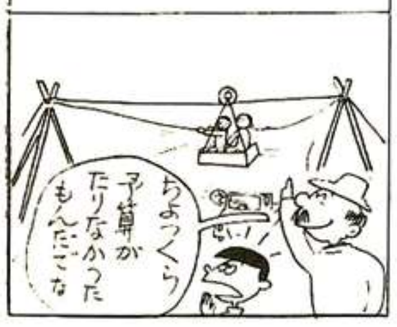
規則は知っているが実行しない。取り締まりがある時だけは守る。こういった人間が多い今の世の中を私たちは悲しみます。いつでも、どこでも、どんなことがあっても必ず、規則には従う心構えと態度の習慣化を考えねばなりません。

私たちの学校は交通安全宣言校です。校庭では何度か交通規則の講習も開かれ私も大体の交通規則を知っています。しかし実行しているのは残念ながら道路を横断する時に、手を上げているということだけです。でも、この手を上げることすら必ず実行しているかというと疑問です。

私は先日、友達と初めて自転車で塩山へ買い物に行きました。買い物に思ったより時間がかかり帰りに向かったのが確か五時ころだったと思います。私も友達も慣れないせいかひどく疲れ速力は弱まるばかり、そんな私たちにはかまわずまわりはドンドン暗くなって行きます。もう気が気ではありません。それまでははただ左側通行していればよかったのですが今度は右側に渡らなければなりません。私はそのとき右側に横断するときは右手を横に上げるという規則を実行せずに横断しようとしたのです。その瞬間後でトラックが警笛の音と共に急停車したのです。私は思わずハッとしました。ただ驚いたなんていうものではありません。皆さん、その場面をご想像ください。私は、今思い出しても、おそろしくなります。あのとき、幸いにも私たちは事故にならなかったことなのでしょうか。私にはふしぎでなりません。

警察官がいる時といない時とでは運転者も歩行者も行動が違うそうです。この私からよかったものの、もし、あのとき事故に合っていたら……。なんて考えると、規則を知っていながらそれを実行に移すことのできなかった自分が情なく思えてなりません。

皆さん、この私の体験からもわかるように、いかに交通規則を守ることが大切であるか。また、いくらたくさんの交通規則を知っていても、それを実行に移さないのでは何にもならないということがよくおわかりでしょう。ですから、これからは大人も子供もおたがいに規則を守り一日も早く交通戦争がなくなり、交通取り締まりなどしなくてもよい世の中にするよう努力しようではありませんか。努力するだけではなく、知っている交通規則はそのときどきに応じて必ず実行に移そうではありませんか、それによっておそろしい交通事故を滅亡させ、今までとざされていた交通事故がない「すばらしい世の中の幕」を私たちの手で開こうではありませんか。



交通教室

賠償も過失相殺

飲酒運転承知で乗れば

◆交通解事故決の実例◆

一、物件事故の例

(一) 衝突されたバスが、パチンコ屋に飛び込んだ。

A病院に雇われている運転者が、乗用自動車の運転を誤りバスに衝突した。

その衝撃でバスは道路沿いのパチンコ店に飛び込み店内を大破した。

被害としては、パチンコ屋の看板、電気器具が破損し、パチンコ台がメチャクチャにこわれ、バスは修理不能の大破となった。

A病院に対して、被害者であるバス会社が四四万九千六九〇円、パチンコ屋が九〇万九千四五五円の損害要求をし、裁判で争った。

裁判の結果、被害者の要求はほとんど認められ、加害者であるA病院は、バス会社に四三万八千二〇〇円パチンコ屋に九〇万九千四五五円の支払いを命ぜられた。

二、傷害事故の例

(一) 酔っぱらい運転をして、同乗者に怪我をさせた。

めいていして三輪車を運転、前方にある大木に衝突し、同乗者に入院三十日の重傷を負わせた。

被害者は十八才で運転者としての職を持っていた。

被害者は、将来得べかりし利益損失の現在額として九一万七千八一〇円を算出し、治療費等の合計額として四万六千六一八円を要求した。

裁判所は、被害者にもめいていい運転を承知で同乗した過失があるとし、過失相殺のうえ、損害賠償金四五万円、慰謝料一〇万円の支払いを命じた。

(二) バスに追突されて負傷した。

被害者であるA子は、停止信号のため停車していたが、後続してきたバスに追突された。

バスの運転者は赤信号に気付かず四〇キロのスピードで走っていた。

ハッとしたときには既に遅く一メートル位スリップしてA子の車にガチャン。

すぐさま入院施療したのだが、視力減退、頭重、胃腸障害等の後遺症がのこり、作業能力が著しく低下した。

被害者A子は、バス会社に対して損害賠償七一万二千九〇五円、慰謝料一〇〇万円請求の訴えをした。

A子は主婦であるが、薬剤師の免許を持ち、母の経営する薬局で働き、毎月二万円の収入を得ていた。

裁判の結果は損害賠償、慰謝料合計一二一万二千九〇五円であった。

◆裁判例◆

一、無免許運転

Kは免許がないのにジープに乗り運転を誤って三〇キロのスピードで立木に衝突し車の前面を破損した。

一審で実刑三ヵ月の懲役に処せられた。

しかし、Kは人を傷つけたわけではなく、単に道交法違反だけなのだから、この判決は過酷であると控訴した。

高等裁判所では、なるほどKは前科もなく、普段から実直な人柄であるという情状をくみ、懲役一ヵ月、執行猶予一年の判決を言い渡した。

二、無免許運転

ある学校の先生が、運転資格のある同僚に運転技術を教わりながら、五〇〇メートルほど車を動かして違反に問われた。

この先生は、職業指導のために運転免許の申請をしており、近くに練習場所がないのだから、人通りの少ない道路で練習するのは仕方がない。

従って形式的には資格がなくとも、免許証所有者の指導のもとに、既に免許申請するほどの能力ある者が運転するのは、無免許運転にならないと主張した。

裁判所では、そんなことでは免許制度を根本からくつがえすことになる。

資格の無い者が運転することは、無免許運転なのだということで有罪とした。

高橋さんに善行銅章

(交通指導する高橋さん)

甲府市丸の内二丁目十四—四で旅館業を経営する高橋武志（五一）さんは、悲惨な交通事故を一件でも減らしたいとの悲願から、昭和二十七年以来十四年間の長きにわたって、炎熱焼く如き夏の日も、寒風肌を刺す冬の朝にも、毎日甲府市内の交差点に立って交通指導を続けてきました。

そのおかげで、高橋さんの立っている間は、十四年の間まだ一件の交通事故も起きていないということです。

まことに尊い、街の守り神とも言うべきでありましょう。

このたびその善行が認められて、十一月二十八日社団法人善行会会長足立正氏（日本商工会議所会頭）から彰状と善行銅章が贈られました。

彰状

高橋武志殿

あなたは長年にわたり通学児童の交通事故防止のため献身的に尽されました

よって善行銅章を贈りその行為を表彰します。

昭和四十一年十一月二十八日

社団法人善行会
会長　足立　正

成し逐げた『死者ゼロ』

秋の交通安全運動　やればできる

死者ゼロを合言葉に展開した「秋の全国交通安全運動」は、県下の警察官、交通安全協会員の街頭指導活動を中核とした各関係者ならびに全県民の例年にみられない熱意と努力が効を奏し、ついに「死者ゼロ」の目標を達成することができましたが、「死者ゼロ」は全国で山梨と和歌山だけでありました。

交通事故が人災である以上、必ず防ぎ得るものだということは理屈では判りながら、なかなか理屈どおりにいかないのが現実ですが、この「死者ゼロ」の悲願を実現したことは県民のひとりひとりに「やればできるのだ」という信念をあらためて自覚させたと同時に、これからの交通安全運動の推進に無限の励みを与えてくれたのであります。

ここに秋の交通安全運動期間中の会員のみなさんの活動状況の一端をご披露し、ご努力に深く感謝申しあげるとともに、今後のご活躍を心からお願いいたす次第です。

◎甲府

1 運動期間中交通安全を全市民に訴える「アドバルン」を警察署の屋上に掲揚した。

2 各自治会長を安協支部の顧問として、安協の運動に対し積極的な協力を得た。

3 各自治会と協力し、「今日一日の安全を祈る運動」を展開し、メガホン二、五〇〇個を作製して、輪番制で街頭に立って交通安全を呼びかけた。

4 ボーイスカウトの協力を得て、街頭指導を行なった。

◎南甲府

1 八田村安協でポスター三〇〇枚を作成し、交通安全推進の家の入口に掲出した。

2 国母自治会で交通安全旗を作製、二三五戸に掲出するのに協力した。

3 警察と協力し自転車の正しい乗り方教室を中学校五校、小学校六校について実施した。

◎小笠原

1 桑畑の枝伐りを行ない見とおしをよくする等、道路の環境整備を行なった。

2 警察と協力し管内の横断歩道上で小学生の実地指導を行なった。

3 女性ドライバーの会員とともに期間中連日街頭指導を行なった。

4 甲西町支部の回覧板作成、五明・大井地区の運転者講習会など会員に対する積極的な安全活動を行なった。

◎韮崎

1 黄色い交通安全懸垂幕五〇〇枚を作製し、国道県道沿いの各商店、家庭に掲出した。

2 大広報塔を国道沿いに三カ所設置し事故防止をはかった。

3 老人福祉大会（五〇〇人）で老人の安全な歩行についての教育を行なった。

4 各安協支部の無事故無違反コンクールを実施した。

5 高校生に対し、この期間中、とくに徹底した交通安全教育を実施した。

6 双葉町婦人会員と協力してヘルメットの着用運動の呼びかけを行なった。

◎長坂

1 酔っぱらい運転の事故防止のため、「お酒持ちかえり運動」を実施した。

2 交通安全大広報塔を設置した。

3 交通事故死者供養塔を設置した。

4 交通安全母の会、女性ドライバーの会等の会員と協力して街頭指導を積極的に行なった。

5 警察と協力して交通安全会等組織の結成促進をはかった。

◎鰍沢

1 十月十三日管内の代表運転者による「安全運転コンクール」を開催した。

2 警察と協力し毎日の指導重点を定め、これを広報板に大書して二カ所に掲出した。

3 女性ドライバーの会が幼稚園に対し模型信号機四基を贈ったのに協力した。

4 「悲惨な交通事故防止のため協会員のみなさまへ」と題した会報を作成配布した。

◎南部

1 優良運転者の事故防止懇談会（十月十五日）、交通事故被害者の懇談会（十月六日）、ダンプカー運転者の事故防止懇談会（十月七日）等を開催した。

2 カーブミラー八基を設置した。

3 十月九日、南部町で路面整備を行なった。

4 女性ドライバーの会員と協力して運転者に対する湯茶の接待を行ない安全運転を呼びかけた。

5 横断安全旗二〇〇本を作製配付した。

6 身延山久遠寺法主による一日警察署長の行事に協力した。

◎市川

1 三珠町に交通安全のスローガンを掲示した大アーチを設置した。

2 単車乗りにヘルメットの着用と安全運転を呼びかけた独自のポスター五〇〇枚を作成掲出した。

3 十月二十日市川大門町町民総ぐるみ交通安全大会の開催に協力した。

4 吸着式安全旗を一〇〇本作製し小学校に配付した。

5 主要道路の街路燈に黄色い安全旗三〇〇本を掲出した。

6 中学生二、〇〇〇名に対し、自転車の安全標示ステッカーを作成配付した。

7 女性ドライバーの会のラリーとパレードに協力した。

◎石和

1 スクールバス二台を使用し、動く交通安全教室を開催した。

2 ヘルメット着用運動を推進するため、ライオンズクラブと協力し懸垂幕二〇枚を作製掲出した。

3 鈴つきリボン二、〇〇〇個を作製、子どもを対象に配付した。

◎日下部

1 営業車を主体にした無事故無違反コンクールを実施した。

2 交通安全広報塔（アーチ）を二カ所に設置した。

3 十月二十日交通事故被害者の懇談会を開催した。

4 小原地区の自主的駐車規制の実施に協力した。

5 十月四日老人クラブ会員の交通教室を実施した。

6 西保地区で住民六〇〇人に対する講習会を開催した。

◎塩山

1 協会各支部で安全宣言を行なうとともに、それぞれ積極的な街頭指導を行なった。

2 一七回にわたり全支部で運転者講習会を開催した。

3 ヘルメット販売コーナーを警察署内に設け着用運動を推進した。

◎都留

1 事故多発の道沿い随所に立看板、横断幕を掲出交通安全の意識高揚をはかった。

2 桂高校、都留第二中学校等の交通安全会結成に協力した。

3、警察と協力し、中学校小学校八校において自転車の正しい乗り方教室を開催した。

◎富士吉田

1 歩行者の事故防止のためのポスター二〇〇枚を作成掲出した。

2 年間スローガン入り立看板を国道沿いに多数設置した。

3 園児用交通腕章二、〇〇〇枚を作製配付した。

4 カーブミラー五基を新設した。

◎大月

1 黄色い安全旗一、四〇〇本を作製、国道沿いの各戸に配布掲出した。

2 バスの車掌による交通安全呼びかけの「一声運動」を実施した。

3 県外車両を対象にした安全運転呼びかけのパンフレット八、〇〇〇枚を作成配付した。

◎上野原

1 創意をこらした運転者向け、歩行者向けのチラシ六、〇〇〇枚を作成配付した。

2 大立看板（二メートル四方）を三〇枚作製し、国道沿いに設置し事故防止をはかった。

3 警察、安協、学校、PTAによる生徒・児童の交通事故防止座談会を開催した。

4 小菅地区で交通安全パレードを行なった。

5 県道の障害物除去作業を行ない、見とおしをよくした。

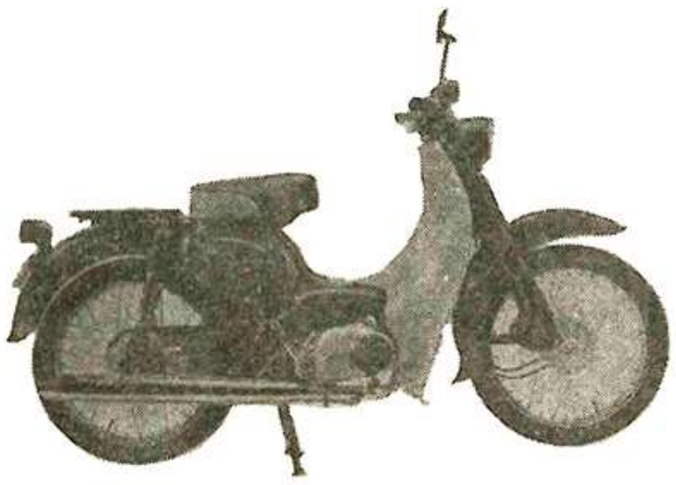
新発売

スズキフロンテ800デラックスセパレート

スズキ

50cc.より軽自動車
軽自動車より普通自動車

スズキキャリイL30



CCIのスズキ
山梨県総代理店

山梨スズキ販売株式会社
甲府市丸の内三丁目7の6　TEL 2－8867(代)